



<本年度クラブ会長方針>

和をもって輪となり、話をもって和とする

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 照井 葉 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 林 順治 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

人類に奉仕するロータリー

<2016-17年度R.I.テーマ>
R.I.会長 ジョンF. ジャーム



第1587回例会

経済と地域社会の発展月間

米山月間

平成28年10月20日(木)

卓話・友達を呼ぼう例会

於 名古屋東急ホテル

会員 58名

出席計算数

52名中44名出席

出席率 84・62%

前々回出席率 86・56%

例年プログラム

★会員組織委員長

・友達を呼ぼう例会ゲスト紹介

★友達を呼ぼう例会

★卓話

ロータリーソング

「大須ロータリーソング」

指揮者 春日井和良

ピアノ伴奏 富坂 玲子

ゲスト

神谷柏露軒 裏千家正教授

神谷 昇司さん

会員組織委員会のゲスト

株ワイズエフエクト代表取締役

余語まりあさん

株太陽堂代表取締役

堀田 聖司さん

株末広屋代表取締役

中野 浩幸さん

有レベル代表取締役

吉野 晃庸さん

有喫茶西町取締役

古橋 大助さん

ニコボックス

「和敬静寂」裏千家正教授 神谷 昇司先生卓話をよろしくお願ひします。

吉田 明夫・酒井 修

横井 衛・岡村 隆徳

田崎 雅三・吉田 憲一

弊社の20周年祭、お越し頂きまして有難うございました。お氣遣いに感謝致します。

林 順治

中野さん、堀田さん、ようこそ。

岡部 快圓

余語まりあさんをお迎えして、ようこそ名古屋大須RCへ。

春日井和良

久し振りでです！

岡田 尚彦

麻雀例会、優勝しました。

近藤宏一郎

林さん、先日ありがとうございました。

木村 光徳

ありがとうございました。

岡田さん、春日井さん、先日はありがとうございました。

柴岡 正将

林さん、おめでとうございます。

草野さん、お世話になりました。

堀江 英弥

昨日ありがとうございました。

草野 勝彦

草野先生、大変ありがとうございました。

神野 邦利

ありがとうございました。

会長挨拶

照井 葉

「ノーベル賞と日本語」



今年も日本人がノーベル賞を受賞して、しかも自然科学分野のノーベル賞を3年連続受賞するという快挙は各マスコミも大きく取り上げました。日本人がなぜ科学分野でノーベル賞を受賞することが多いのか？諸説ありますが、言語という切り口で分析するちょっと面白い話になります。

日本語を母国語とする日本人が、科学の研究を深めるために（ノーベル賞を受賞できる程の）どれくらい英語が必要でしょうか？たとえば、2008年物理学賞を

受賞した益川教授は受賞講演で「I cannot speak English」と断りを入れて日本語で講演しました。韓国や中国では、日本よりはるかに高い英語力を持った研究者たちが多いと言われますが、なかなかノーベル賞には届きません。英語力があるか無いかは、本質的な問題ではないといえます。

江戸末期以降、日本は西洋から近代文明を必死に取り入れる時代になりましたが、研究者たちはまず英語やドイツ語など外国語で入ってくる専門的な言葉を理解し、それに当てはまる的確な単語を作り出すところからスタートしました。例えば初めて目にした「Cell」という英語に対して「細胞」という日本語は存在していないので「Cell」がどういふものかを理解することから研究が始まります。そして的確に内容を理解して「細胞」という日本語を作り、漢字をめてはめる…という気が遠くなるような作業が繰り返されました。科学の研究を深める前に日本語と格闘していたようです。

こうした的確に翻訳された日本語の科学用語・基礎科学の用語は小学校の理科の授業でも使われますから、自然に知識として根付いていきました。この的確な日本語を作り漢字を当てはめ理解すること先人たちの積み重ねが、日本語で不自由なく最先端の科学を学

び研究するようになってきたと言われていきます。

私たちは日本語でものことを考えたり、認識したりしますが、科学の分野でも最大の武器は日本語による思考だと言っているのです。欧米以外の国で英語に頼らず、自分の国の言葉で科学を学び、研究することが出来る国はこれほど多くないでしょう。

日本でも「国際競争力をつけるためには、英語力を強化するべき」という流れになりつつありますが、ノーベル賞を日本語という切り口で見ると「必ずしもそうではない」といえるようになりますね。

卓話

「茶の湯について」

神谷柏露軒 裏千家正教授
神谷 昇司さん



●卓話者紹介

神谷柏露軒 裏千家正教授
神谷昇司 茶名 神谷宗宗
中京茶道界の重鎮として、代々活躍されている裏千家神谷柏露軒

の当主。自宅には、名古屋城の古材で建つけられた茶席「孤篁（こあぐさ）・座敷「柏露軒」・昭和6年裏千家第十四代淡々斎をお迎えしたときに作った「腰掛待合」・熱田神宮の古材を用いた「中瀬門」なかくべしもの「が戦災を逃れて保存されています。そして、この四点は2012年に国の登録有形文化財に指定されています。

名古屋大学・大学院工学研究科・博士課程を修了していらつしやる神谷先生は、日本建築史にも造詣が深く「茶席の名席ハンドブック」も上梓されています。

裏千家正教授として指導はもちろんのこと、岡崎市にある人間環境大学名誉教授・茶の湯文化化学会理事としても活躍です。

友誼を呼ぼう例会

ロータリー活動と例会内容を理解して頂くことを目的に、5名の方々にご参加いただきました。ご出席頂いたゲストの皆様、ありがとうございました



その他・お知らせ

派遣青少年交換学生 報告(続き)

「マンスリーレポート」

青少年交換学生 足立菜未書



初めてのRotary Tripがありました！四泊五日（実際にはオスロまでの夜行列車も含めて7泊6日です）でオスロ都心からバスで20分ほどのSørmarkaというところに行きました。森の中だったので都会っぽくはなかったのですが、笑、ノルウェーに来ている留学生が全員集結しました。

25人弱いたのですが、半分はアメリカ人あまりの多さにびっくりしました。そしてやはり、言語の壁を感じました。それでも日本のことに興味を持っている子もたくさんいて、いっぱい話しました。

「本当は日本に行きたかったけれど、ノルウェーに行くことになったため」と言っている子もいました。

前半の三日間はひたすら勉強で

した。ノルウェーの地理、歴史、言語、ありとあらゆるノルウェーを学びました。それとともに、本当にノルウェー人はノルウェーの全てを愛し、大事に誇りにしているのだなあと感じました。皆のマンスリーレポートを読んでみるとロータリーロールの確認があったとありましたがそういう事は一切なく、全部ノルウェーについての話を忘れたのでしょうか…笑

後半には地区会議があり、私は岐阜地区からきた女の子と台湾からの女の子のチームアジアーでプレゼンテーションをしました。アジアのちよつとオカシイ食事について説明した後、日本語の曲にのせて歌って、ダンスもしました。なかなかウケてもらえたのがおもしろかったです。

最終日はカヌーイング&クライミング！やっぱりノルウェーの自然は雄大でした。バスの時間の関係上別れを惜しむ間もなく解散になってしまいました



が…また冬のウインターカップ、最後のノ

ルウェーツアーでも春派遣を除き同じメンバーらしいので、会えるのを楽しみにしています。

ちなみに本場にヨーロッパツアーはなくて…最後に10日間くらいでノルウェー全体を回るルウェーツアーがあります。北から南まで周れるらしいので楽しみです。

だんだん日が短くなっていて、そろそろ秋が、冬が近づいているのを感じて感じます。もうノルウェーに来た時点で寒くて秋や冬の間感じだっただけですけどね。笑
以上、9月のマンスリーレポートでした！

11月3日(木) 例会の案内

法定休日

11月10日(木) 例会の案内

例会変更

11月5日(土)～6日(日)

地区大会 於 WFCヤキヤッスル

大会第1日目

本会議：受付14時30分

開会15時30分 閉会17時10分

大会第2日目

本会議：受付9時00分

開会10時00分 閉会16時00分

11月17日(木) 例会の案内

クラブフォーラム

広報委員会

吉田 隆彦・杉浦 令淑
近藤 明美・伊藤 正明

*本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。